



今週のテーマ

卒業

皆勤賞友の助け

富津市 理容業

羽賀昭治さん(77)

私は小学1年から中学3年までの9年間、一日も休まず登校した。卒業式には皆勤賞を受賞し、賞状と木製のすずり箱をいただいた。「小さい体でよく頑張ったね」と母はとても喜んでくれた。今、振り返ってみると、雨の日や風の日は、暑さや寒さにも耐え、体調の優れない時には朝礼で倒れて保健室へ運ばれたこともあった。そんな時、助けてくれた同級生がいた。その人

たちは卒業してからも食事会や旅行などで交流を重ねた。私は今でも妻と共に現役で仕事をしている。せめて小1の孫が中学校を卒業するまで続けないのである。

増え続ける心配

柏市 主婦

杉野ふみ子さん(72)

「おめでとうございます。あなたは今日で子育てを卒業しました」。こんな言葉が聞いたら、ハッピーでルンルン気分だが、そうはいかないのが人生だ。子

ひ3ば  
3/11 読ん

集団就職で上京

松戸市 無職

氏家義一さん(82)

私が中学を卒業したのは1953年3月である。父が太平洋戦争で戦死し、母が49年夏に病死し、私と弟は親戚の農家で別々に育てられた。私は農家の仕事を手伝いながら中学に通った。卒業後は進学しなかったが、とても言い出せる状態ではなかった。卒業式は3月23日。翌日には集団就職列車に揺られて上京することになった。卒業式を終えて柳行(やなぎぎょう)李1個に着替えなどを話めて旅支度をした。私にとっては卒業イコール就職の印象が残った。

供だけでなく今度は孫の心配まで増えるのだ。もちろん楽しいこともたくさんあるだろうが、心配いとも多い気がする。この世から去って初めて「卒業おめでとうございます」なのだろうか。「えー あなたの性格なら死んでも心配しているでしょうね」と友達から言われた。あとどれくらい待てば卒業できるのだろうか。